

単位数	教科担当者	使用教科書・補助教材・その他
2	桑野 愛	音楽Ⅰ Tutti+ (教育出版)
必修 学校必修 ○必修選択 自由選択		

◆学習の目標

- ・学習の諸活動を通して感性や表現力を高め、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育む場として、多くの教材を提供しながら音楽の世界観を多角的にとらえられるようにする。
- ・実技表現力向上に必要な楽典や音楽史の学習を折り込むことで、音楽の視野を広げる。

◆主な学習内容・方法

- (1) 実技
歌唱、器楽、リズム表現といった様々な実技を取り上げる。その際、楽譜を深く読み込むことで得られる知識と、実技表現をどう結び付けていくかについて学び、体感することで実技と楽典の乖離、理論学習に対する拒否感を払拭していく。
- (2) 鑑賞
レポートによる調べ学習および発表を行う。一つのテーマを深く掘り下げて調べ、探求することの大切さと面白さを学び、同時に音楽の鑑賞方法の基礎を身に付ける。
- (3) 創作
実技学習の一環として取り扱いながら、楽典の知識も身に付くような学習を行っていく。

◆到達目標と観点別評価の評価規準

- 到達目標：〔標準〕・実技、鑑賞、創作の各学習を介した音楽知識力と音楽表現力の伸長。
・自らが思い描く音楽表現を実践できる音楽実技能力の獲得。
- 〔応用〕・各学習を通じて身に付けた知識と実技能力をどのような楽曲においても活用できる応用力と楽譜解釈力の獲得。
- 〔観点別評価の評価規準〕
- 知識・技能
- ・楽譜に書かれている内容を理解し、実技表現と結び付けて演奏することができる。
 - ・周囲の人にアドバイスすることができる音楽知識・技能・コミュニケーション能力が身に付いている。
- 思考・判断・表現
- ・楽譜を解釈し、楽曲にふさわしい表現方法を自ら考えとともに、表現を創意工夫できる。
 - ・音楽鑑賞の際に、作曲者の意図や楽曲の構成、歴史等、楽曲について深く掘り下げ、それらについて考察ができる。
- 主体的に学習に取り組む態度
- ・実技・鑑賞・創作の各学習に主体的に取り組み、授業中の発問に対して自らの考えを説明することができる。
 - ・各種活動において、周囲の友人に助言をしたり、演奏方法のアイデアを出すなど主体的、積極的に学習に取り組むことができる。

◆年間予定授業時間

予定時数	70時間	1学期 (26時間)	2学期 (28時間)	3学期 (16時間)
------	------	------------	------------	------------

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

- ・実技と創作の学習については、授業中に集中して取り組むこと。また、周りの仲間と協力しながら表現力および創造力の伸長を目指して学習方法を工夫すること。
- ・鑑賞の学習は、調べ学習と発表を行うので、書籍・インターネット等を用いて情報収集する能力を養い、課題をこなすこと。
- ・タブレット端末を用いて配布資料の管理と課題の提出を遅滞なく行うこと。

◆授業計画

学期	月	単元・教材等	単元ごとの時間数	学習の内容	学習到達目標
1 学期	4	・歌唱 校歌斉唱 独唱、合唱	1 2	・楽譜に書かれた音楽表現を生かした歌唱方法の基礎	・発声法の基礎を理解し、正しい発声で音楽表現ができる。
	5		6	・リズム学習を用いた楽典基礎	・記譜の基礎を理解し演奏できる。
	6	・リズム			
	7	・創作 リズム創作	8	・楽典の基礎理解と簡単な創作活動	・演奏するリズムを楽譜に書き表すことができる。
2 学期	8	・鑑賞	2	・音楽史基礎学習。およびオーケストラの基礎知識学習、演奏体験	・クラシック音楽の基礎を理解しながら管弦楽曲の鑑賞ができる。
	9	・器楽、歌唱 ウクレレ基礎	6		・楽器の基本構造を理解し、コードネームによる伴奏、TAB譜によるメロディが演奏できるようになる。
	10	・グループアンサンブル基礎	1 0	・ソプラノウクレレの演奏技能習得。また、ソプラノウクレレの演奏と合唱によるグループアンサンブルおよびコードネームの理論学習	
	11				・楽曲について適切に調べ学習を行い、内容を分かりやすく授業形式で発表することができる。
	12	・鑑賞 レポート発表	1 0	・与えられた課題、楽曲についてグループで調べ学習、および発表	
3 学期	1	・歌唱 混声 4 部合唱	8	・合唱コンクールに向けて、楽曲を理解し、表現していく。	・正しい発声で自分のパートを歌唱し、1, 2 学期に学習したことをふまえて合唱表現ができる。
	2	・創作 映像作成	8	・グループで適切なカップスリズム演奏と BGM を用いた映像作品を作る。	・適切な楽曲選択と 1 学期に学習したリズム課題を応用した演奏ができる。
	3				・タブレット端末を適切に用いて作品創作ができる。